

琉球大学医学部生への白衣贈呈式

会長 田名 毅



去る令和7年4月23日（水）、琉球大学西普天間キャンパス（教育棟6階大講義室）において、沖縄県医師会初の試みとして、琉球大学医学部の学生へ白衣を贈呈した。その概要を報告する。

当件は、本会の出口理事より、医学部医学科4年生の学生が、クリニカル・クラークシップの臨床実習を前に「スチューデント・ドクターとなり、これから医師を目指す医学生として第一歩を踏み出す臨床実習を前に、白衣を授与し、学生の医師としての心構えを新たにする」という目的から白衣授与を行う大学が増えている。一方、琉球大学では、これまで学部長訓話等は行われていたが、その象徴とされる白衣授与は行われていないため、本会から白衣を寄贈してはどうかとの提案があり、本会理事会で協議を行い寄贈することになった。

贈呈式には、沖縄県医師会から私と涌波常任理事、琉球大学の中西浩一医学部長と鈴木幹男

病院長、そして医学部学生が出席した。

沖縄県医師会を代表して、下記のとおり挨拶した。

「沖縄県医師会から、琉球大学医学部の学生の皆さんに、白衣を授与できることを大変嬉しく思う。そして、何よりもこの日を迎えるにあたり、日々努力を重ねてきた皆さんの成長と、今後のご活躍を心より期待している。白衣は医療の現場における「使命」を象徴するものであり、患者さんとの信頼関係を築くための第一歩である。皆さんがこの白衣を身にまとった瞬間、学生ではなく、未来の医師としての責任を自覚することになる。医師としての役割には、知識や技術だけでなく、患者さんへの思いやり、優しさ、誠実さも求められる。医学は日々進歩し、新たな知見が次々と生まれるが、どんなに技術が進化しても、患者さん一人ひとりの心に寄り添うことが医師の最も重要な使命であると私は考えている。皆さんが患者さんにとって信頼の

おける存在となり、痛みを和らげ、希望を与える存在になることを願う。

皆さん一人ひとりが、医師として、そして人間として素晴らしい成長を遂げられることを、心より祈っている。沖縄県医師会は、皆様が将来の沖縄の医療を担う存在として成長されることを期待し、地域医療の発展にともに取り組める日を楽しみにしている。」

続いて、中西浩一医学部長より、下記のとおり謝辞が述べられた。

「この白衣を手にして、今持つてる熱い気持ちをさらに、積み重ね明日からの実習に望んでいただきたい。田名会長は、昨年、全国最年少で県医師会長に就任される前から、琉球大学と連携を図り発展させていただき感謝申し上げます。今回の白衣贈呈も初となり、気持ちを高めていくことができる。私も医師を取り巻く環境というのは厳しい状況であるが、苦しい時こそ、笑顔で乗り越えたい。下を向いてばかりでは収穫がない。しっかり上を向いて歩いていく

という姿も大事である。これから医師になる皆さんが大いに活躍し、沖縄県の医療も支えていただきたい。引き続き、県医師会の皆様と連携を取り一緒にやっていきたい。」

その後、白衣贈呈式が行われ、学生代表の古庄尚弥さんより「この度は、このような立派な白衣を寄贈いただき誠にありがとうございます。私たちにとって、このような白衣は、臨床実習で、医療の現場に足を踏み入れる象徴であり、より一層身が引き締まる思いです。これから、臨床実習で、この白衣を身につけていくことはもちろん、研修医になった後も、患者さんの前にこの白衣を着て、患者さんと接するそのような大切な一着になると考えております。この度は、誠にありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。」と謝辞が述べられた。

白衣贈呈式は、将来の医師となる学生たちの決意を新たにし、地域医療への貢献への期待が寄せられる場となった。

